

第5章 まちづくりの目標

THE GOAL

5-1. まちづくりの目標

まちの将来像の実現に向けて、「環境」が整った様々な「空間」で多様な「活動」が展開され、にぎわいが創出されるまちづくりに向けて、3つの目標と拠点・軸・エリア別に取り組む重点目標を設定します。

目標1

文化・交流・にぎわいを生み出す多彩な「活動」の創出

個性的で魅力ある店舗等による商業活動、企業による経済活動、人々による地域活動、観光客を受け入れる活動など、多彩な「活動」により人々を惹きつけ、にぎわいあふれる複合市街地を目指します。

蒲田らしい魅力を活かしたイベントの開催やプロモーション活動などを進めると共に、商業の活性化に向けた取組はもとより、企業等の業務機能やそれを支える機能、暮らしの場として生活を支える機能等の集積を図ります。また、様々な人々が出会い、交流し活動が活性化される機会を創出します。

目標2

地域の価値を高める「空間」の充実

利便性の高い公共交通や質の高い駅空間、蒲田駅東西やまちを繋ぐ歩行者空間、まちの随所にあるゆとりある空間など、充実した都市「空間」が多様な人々を受け入れ、回遊や滞在を促し、地域全体の価値が高まることを目指します。

羽田空港へのアクセス向上を図る新空港線の整備、交通結節機能の強化に向けた蒲田駅の東西や駅とまちをスムーズに繋ぐ東西自由通路や駅前広場の整備等を推進します。また、歩行者にやさしい歩行者空間の形成はもとより、様々なモビリティの受入れに向けた取組、老朽化建物の共同化等を推進します。

目標3

安心して快適に過ごせる「環境」の向上

地震や水害などの災害に強い環境、誰もが使いやすく多様な人々を受け入れる環境、個性的で魅力ある環境など、豊かな「環境」が人々に快適さや安心感を与えるまちを目指します。

災害対策の拠点として災害に強いまちづくりを推進するとともに、減災や災害発生時の早期復旧に向けた備えの強化や、関係者の連携した防災活動等により、まちの安全性を高めます。また、誰もが分かりやすく移動しやすい環境の整備、ゆとりを与える緑の確保やエネルギー消費を減らす取組などを推進します。

横断的取組による相乗効果の創出

個別の取組による効果を更に高めるためには、「活動」「空間」「環境」に渡る複数の取組を横断的・総合的に行うことが有効です。

また、敷地や主体を越えた取組も重要となります(例えば、商店街の活性化においては、店主・地権者・道路管理者等の連携が重要です)。

蒲田のまちづくりを進める上では、13の分野を横断したアクションの展開により、異なる分野の取組の相乗効果を生み出しながら目指す姿を実現していきます。


13の分野を横断した取組を展開



5-2. 拠点・軸・エリア別の重点目標


拠点・軸・エリア毎に、実現されるまちの風景をイメージしたエリア別の特に重要な目標を示します。多様な取組が相乗効果を生み出すよう、横断的・総合的に展開し実現を目指します。

(地区内拠点)



JR・東急蒲田駅前拠点
国内外やまちを繋ぎ、利便性が高くまちの顔となる
交通結節機能の強化


- ① 駅の東西、駅とまちを円滑に繋ぐ歩行者空間の創出
- ② 公共交通の乗換えを支え、にぎわい溢れる駅前空間の創出
- ③ 交通結節点にふさわしい都市機能の強化



京急蒲田駅前拠点
人々をまちに引き付け、玄関口にふさわしい
来街者を魅了する駅前拠点の形成

- ① 国内外からの来訪者を迎え入れる玄関口の形成
- ② 調和の取れたまちなみと安全で快適な歩行者空間の形成


(軸)



都市骨格軸
商業などが連続し、にぎわいの広がりをつくる
歩いて楽しいストリートの形成


- ① 沿道のにぎわいが連続するまちなみの形成
- ② 道路と沿道が一体となった活力あふれるストリートの創出
- ③ 安心して快適に拠点やまちを繋ぐ歩行者環境の形成

(エリア)




都市機能集積エリア
様々な都市機能が集積し、人々を惹きつけ・留める
にぎわいの創出

- ① 商業・業務を中心に多様な機能が集積する複合市街地の形成
- ② 多様な活動が展開され、にぎわいあふれる空間の創出
- ③ 安全で環境にやさしい市街地の形成




多機能複合エリア
周辺住宅地と本地区をつなぎ、
水と緑を感じる
地域に根差した活力の創出

- ① 多様なライフスタイルに対応する市街地の形成
- ② 水と緑が感じられる生活環境の形成



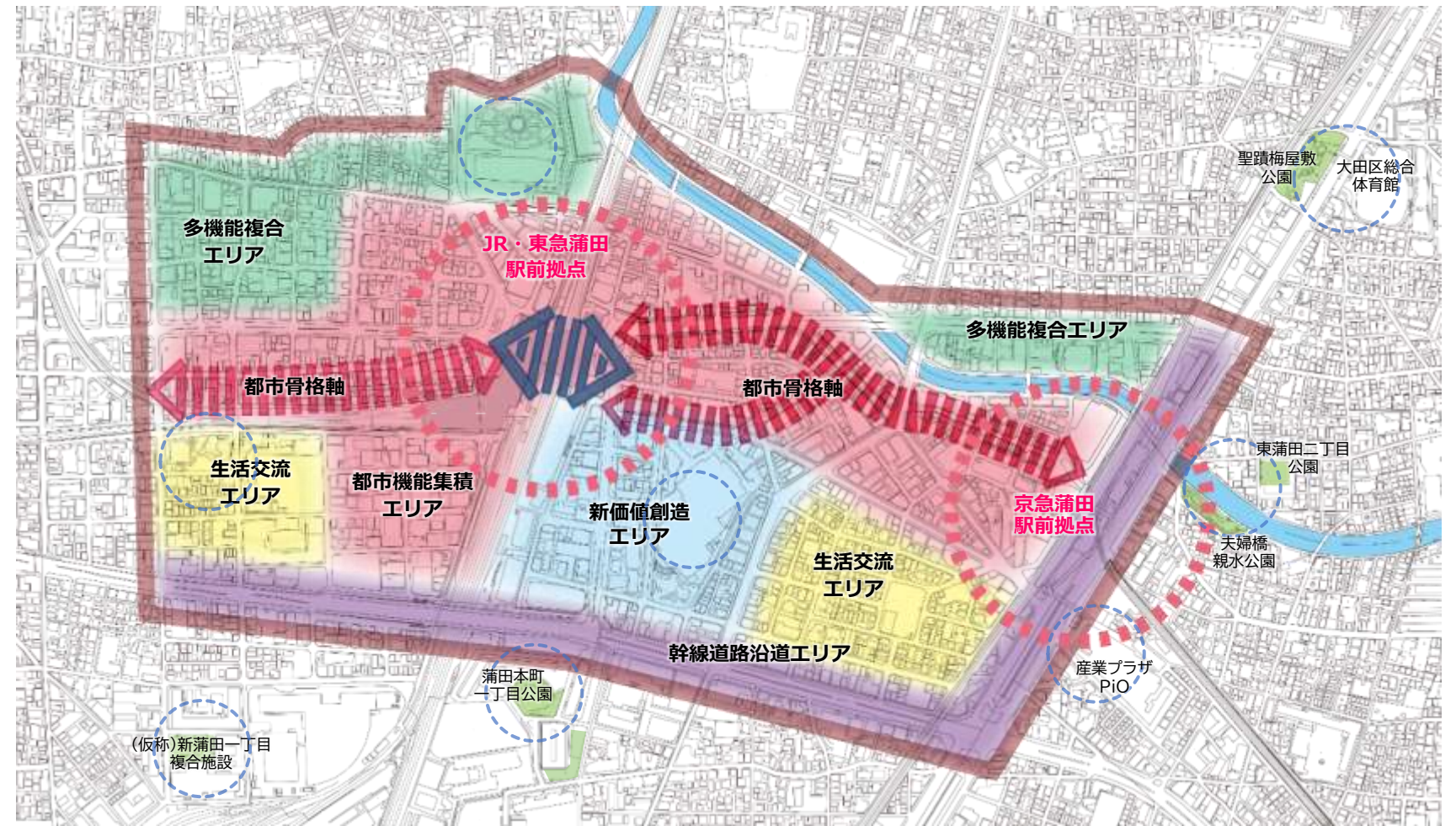
生活交流エリア
学びや交流の場となる学校や
公園などを中心として
地域への愛着や親しみの育成

- ① 人々が交流し、繋がりを育む生活環境の形成
- ② 安全で安心して暮らせるまちづくりの推進



幹線道路沿道エリア
広域的な移動を支え、
街路樹や災害に強い建物が立ち並ぶ
安全で快適な沿道整備

- ① 安心して安全な幹線道路沿道の形成
- ② 円滑な移動を支える道路環境の創出



1. グランドデザイン
の改定にあたって

2. 蒲田駅周辺地区の
特徴と課題

3. まちの将来像

4. まちづくりの
方向性

5. まちづくりの目標

6. まちづくりの
分野別方針

7. まちづくりの取組

8. JR・東急蒲田駅前
拠点の施設整備

9. グランドデザインの
実現に向けて



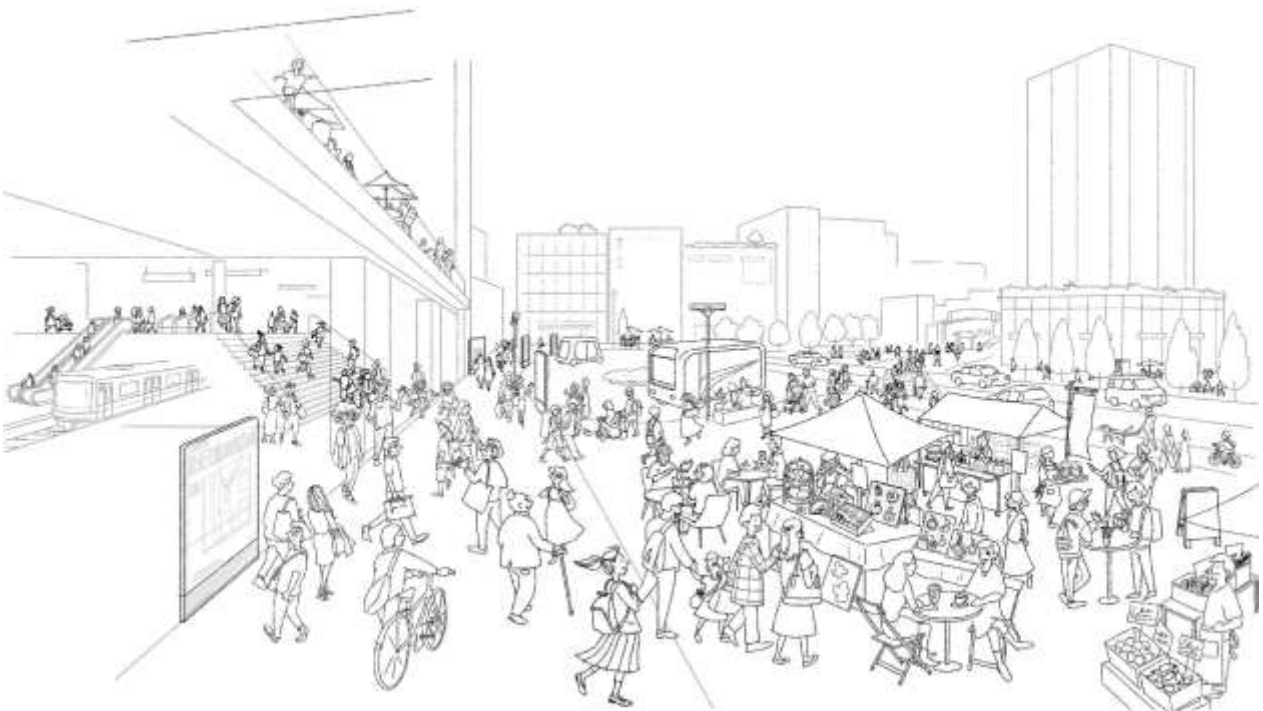
拠点 01. JR・東急蒲田駅前拠点

(拠点の目指す姿)

国内外やまちを繋ぎ、利便性が高くまちの顔となる

交通結節機能の強化

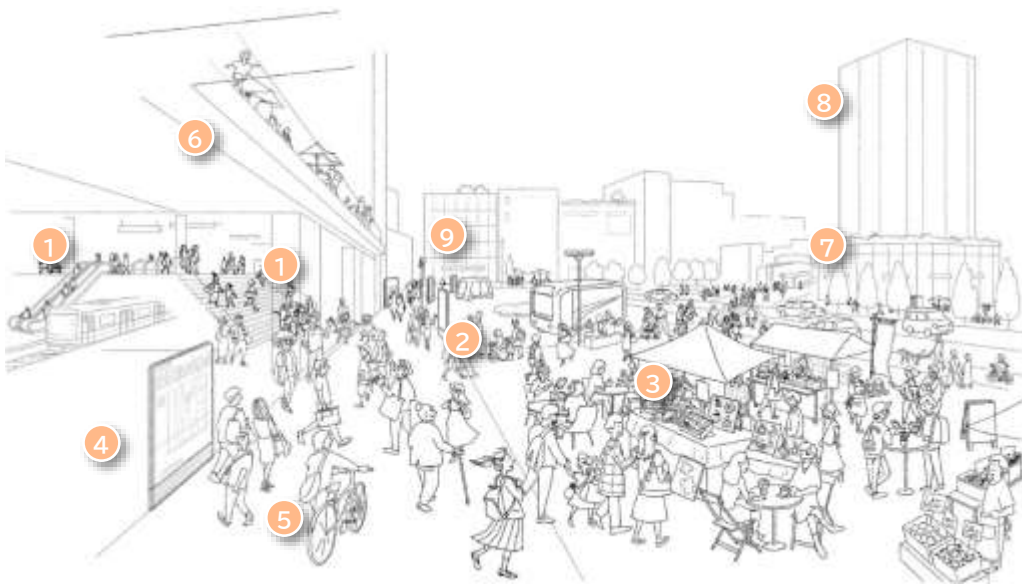
(将来イメージ)



(重点目標)

- (1) 駅の東西、駅とまちを円滑に繋ぐ歩行者空間の創出
 - ・ JR・東急蒲田駅東西の分断を解消し、連携を高めると共に、駅利用者の円滑な乗換えを実現する東西自由通路の整備と北側通路の整備に向けた検討
- (2) 公共交通の乗換えを支え、にぎわい溢れる駅前空間の創出
 - ・ 様々な交通手段の円滑な乗換えを支え、人々をまちへとスムーズに繋ぎ、にぎわう駅前広場の機能向上
 - ・ 駅前空間の活用によるにぎわいの創出
- (3) 交通結節点にふさわしい都市機能の強化
 - ・ 交通結節点として快適性・利便性の高い、駅前広場と連携した駅舎・駅ビルの機能更新や周辺街区の共同化による土地の高度利用
 - ・ 建築物の機能更新や周辺街区の共同化に合わせた都市機能の集積

(将来イメージの解説)



解説

- | | |
|----------|---|
| 重点目標 (1) | ① 駅の東西を快適につなぐ東西自由通路 |
| 重点目標 (2) | ② 多様な活動が展開される駅前広場
③ オープンスペース等を活用したイベント等の実施 |
| 重点目標 (3) | ④ 案内誘導など分かりやすいサイン
⑤ 駅前広場における自転車の押し歩き
⑥ 駅前広場と連携した駅舎・駅ビルの機能更新
⑦ 駅周辺街区の建替えや共同化、街区や公共施設の再編
⑧ 環境性能、強靱性の高い建築物
⑨ 建築物の機能更新等に合わせた商業・業務・宿泊機能等の集積 |



拠点 02. 京急蒲田駅前拠点

(拠点の目指す姿)

人々をまちに引き付け、玄関口にふさわしい

来街者を魅了する駅前拠点の形成

(将来イメージ)



(重点目標)

(1) 国内外からの来訪者を迎え入れる玄関口の形成

- ・観光情報センター等を観光の起点として観光や文化の情報発信・文化体験等の実施・駅前広場など様々な空間におけるイベント等の開催
- ・羽田空港へのアクセス性を活かし、建築物の共同化等に合わせた駅前に相応しい多様な機能の集積

(2) 調和の取れたまちなみと安全で快適な歩行者空間の形成

- ・地区計画により共同化を促進し、人々でにぎわう公開空地や街路空間の創出
- ・玄関口として、来街者を迎え入れ、まちへ誘導する駅前広場や主要街路等のサイン整備・バリアフリー整備の強化

(将来イメージの解説)



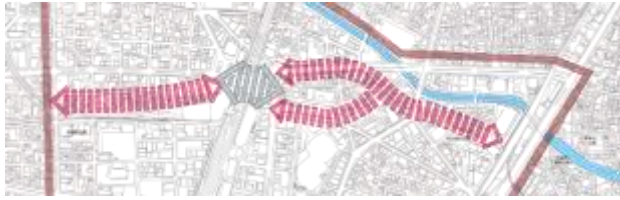
解説

重点目標 (1)

- ① 観光情報センター等による観光施策の展開
- ② オープンスペース等を活用したイベント等の実施
- ③ 新空港線の整備と設えを備えた乗換え空間の形成
- ④ 建築物の共同化等に合わせた商業・業務・宿泊機能等の集積

重点目標 (2)

- ⑤ 地区計画による共同化
- ⑥ 移動しやすいバリアフリーの歩行空間
- ⑦ 案内誘導など分かりやすいサイン
- ⑧ 自由な移動を支える先端技術と交通モード



軸 01. 都市骨格軸

(軸の目指す姿)

商業などが連続し、にぎわいの広がりをつくる

歩いて楽しいストリートの形成

(将来イメージ)



(重点目標)

(1) 沿道のにぎわいが連続するまちなみの形成

- ・沿道のにぎわいが連続するよう商店を中心に、業務などが集積し、低層部に商業や業務が配置されストリートに向け顔を向けたまちなみの形成
- ・低未利用地や駐車場の出入口等によるにぎわいの連続性の分断を防止

(2) 道路と沿道が一体となった活力あふれるストリートの創出

- ・建物の共同化等の促進と合わせ、公開空地や歩行者空間などオープンスペースの創出と道路空間の再編。それら空間の活用によるにぎわいの創出

(3) 安心して快適に拠点やまちを繋ぐ歩行者環境の形成

- ・JR・東急蒲田駅から京急蒲田駅への円滑な移動を支えるサイン整備・バリアフリー整備の強化
- ・地区内外を継ぎ目なく移動できるよう、パーソナル・グリーンスローモビリティの導入

(将来イメージの解説)



解説

- 重点目標 (1)** ① 通りに顔を向ける低層部への商業や業務等の配置
② 土地の低未利用地や無秩序な駐車場の出入口等を抑制
- 重点目標 (2)** ③ 歩行者空間と一体となったオープンスペースの創出
④ 歩行者の回遊と多様な活動を支える道路空間の再編
⑤ 歩行者空間等を活用したイベント等の実施
- 重点目標 (3)** ⑥ 安心して歩ける、バリアフリーな歩行空間
⑦ 案内誘導など分かりやすいサイン
⑧ 自由な移動を支える先端技術と交通モード



エリア 01. 都市機能集積エリア

(エリアの目指す姿)

様々な都市機能が集積し、人々を惹きつけ・留める

にぎわいの創出

(将来イメージ)



(重点目標)

(1) 商業・業務を中心に多様な機能が集積する複合市街地の形成

- ・個性ある商店を中心に、業務、生活利便、娯楽施設など、地域住民だけではなく来街者やビジネスパーソンなど人々のニーズに対応した多様な機能の集積
- ・土地の低未利用地や無秩序な駐車場の出入口等を抑制し、低層部への商業や業務等の配置により連続するまちなみの形成

(2) 多様な活動が展開され、にぎわいあふれる空間の創出

- ・建築物の共同化等の促進と合わせ、公開空地や歩行者空間などオープンスペースが創出され、まちなかで人々がにぎわい・留まるためのイベントなどオープンスペースの活用
- ・地域住民等と緑化や美化活動を推進すると共に、地域住民や事業者が主体となったまちの魅力を高めるマネジメント活動の促進

(3) 安全で環境にやさしい市街地の形成

- ・建築物の耐震化を促進すると共に、共同化等に合わせた無電柱化や緑化の推進、環境負荷の低減
- ・地域住民の QOL や来街者の利便性向上に資する先端技術の活用

(将来イメージの解説)



解説

重点目標 (1)

- ① 人々のニーズに対応した多様な機能の集積
- ② 低層部に商業や業務等の配置
- ③ 土地の低未利用地や無秩序な駐車場の出入口等を抑制
- ④ 老朽化した建築物の共同化等

重点目標 (2)

- ⑤ 人々の活動を支えるオープンスペースの創出
- ⑥ オープンスペース等を活用したイベント等の実施
- ⑦ まちの魅力を高めるマネジメント活動 (デジタルサイネージ)

重点目標 (3)

- ⑧ 無電柱化や緑化されたまちなみの形成
- ⑨ 先端技術 (ドローン等) を活用した、サービスの展開



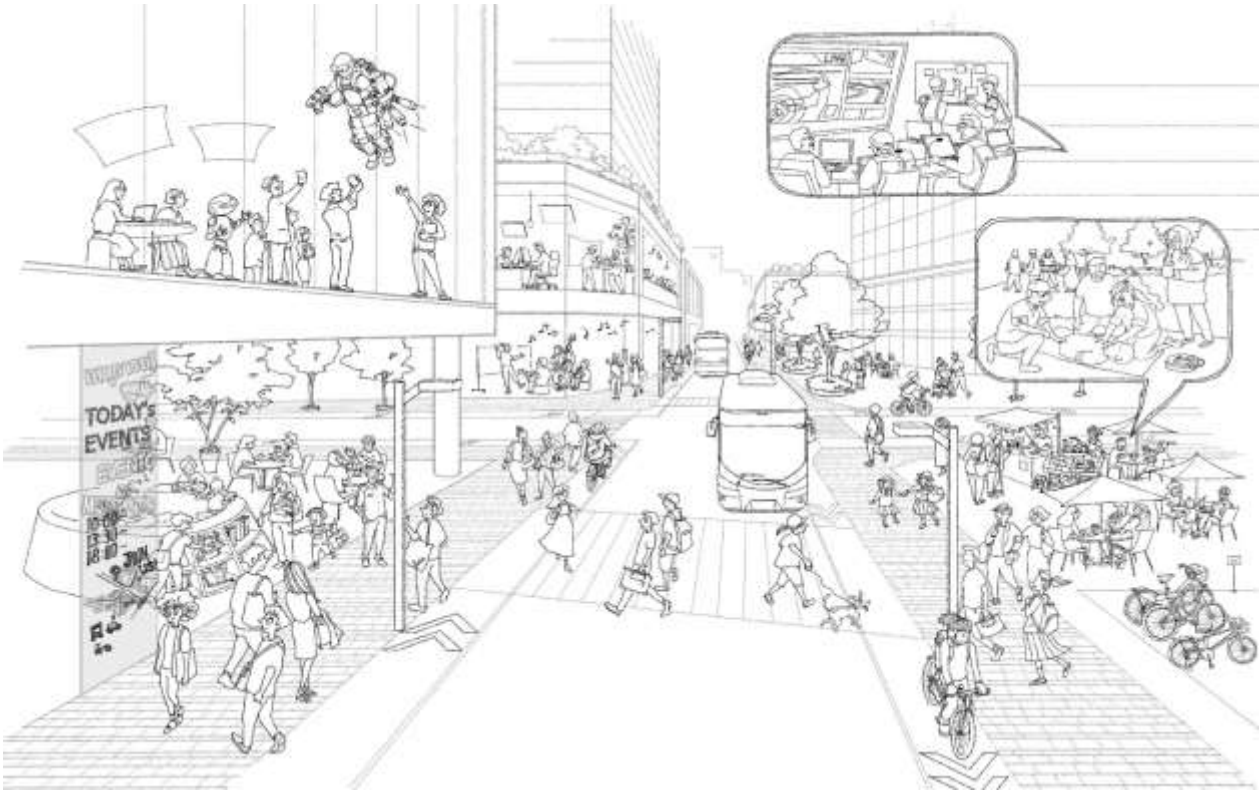
エリア 02. 新価値創造エリア

(エリアの目指す姿)

ビジネス・文化などが集約し、人々の活発な活動・交流による

新たな価値の創出

(将来イメージ)



(重点目標)

(1) 人々や企業の交流を育み新たな価値を生み出す市街地の形成

- ・国内外や都市間への広域アクセス性の高い立地を活かし、業務機能やビジネスパーソンを支える機能の集積
- ・区のものづくり技術をはじめとした先端技術等に関するMICEの誘致や企業間交流を支える機能の誘導

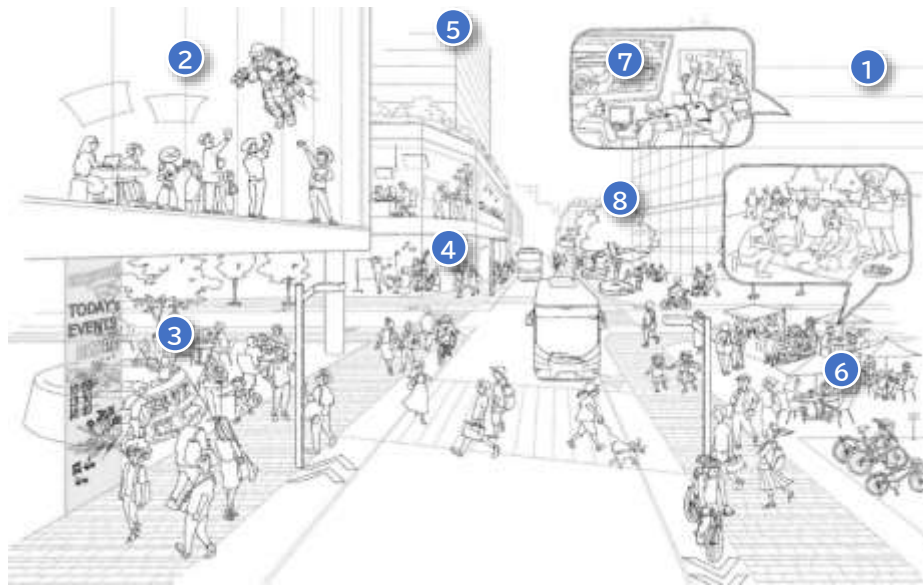
(2) 集い・学び・交流がうまれる空間の創出

- ・歴史等を学び・交流が生まれ、蒲田に対する愛着が育まれる多面的な機能を誘導すると共に、現代アートやデジタルアートの展示など、創造性を育む取組の実施
- ・建築物の共同化等の促進や街区再編と合わせ、交流や活動の場となる公開空地や歩行者空間など道路空間と一体となったオープンスペースの創出

(3) 安全で環境にやさしい市街地の形成

- ・企業等におけるBCP策定を推進すると共に、再開発や共同化等に際して地域冷暖房施設の受入れや自立・分散型エネルギー導入の促進

(将来イメージの解説)



解説

- 重点目標 (1)**
- ① 高機能なオフィスやシェアオフィス等業務機能の集積
 - ② 新技術などのショーケースとなる中規模MICEや産業交流施設の誘導
- 重点目標 (2)**
- ③ 学びと地区への愛着を育む多面的機能の誘導
 - ④ 多様な文化やアートに触れられる機会の創出
 - ⑤ 建築物の建替えや共同化、街区や公共施設の再編
 - ⑥ 人々の活動や交流を支えるオープンスペースの創出
- 重点目標 (3)**
- ⑦ 企業におけるBCPの作成等
 - ⑧ 建替え等に合わせた環境負荷の低減



エリア 03. 多機能複合エリア

(エリアの目指す姿)

周辺住宅地と本地区をつなぎ、水と緑を感じる

地域に根差した活力の創出

(将来イメージ)



(重点目標)

(1) 多様なライフスタイルに対応する市街地の形成

- ・住商近接の立地特性を活かし、商業や業務をはじめ、医療・教育・子育て等の生活支援機能の誘導
- ・観光客やビジネスパーソンを支える滞在施設（中長期型を含む）やワーキングスペース等の誘導

(2) 水と緑が感じられる生活環境の形成

- ・呑川沿いを親水空間として活用するため、水質の改善や水と緑が楽しめる沿道の整備
- ・建築物の建替えを促進すると共に、あらゆる場所に緑を創出

(将来イメージの解説)



解説

重点目標 (1)

- ① 商店や学習塾などが立地する、暮らしを支える機能
- ② 国内外からの観光客やビジネスパーソンが中長期滞在できる宿泊機能
- ③ ビジネスパーソンが快適に働くことのできる、まちなかの小さな仕事場

重点目標 (2)

- ④ 緑を感じながら散策できる呑川沿道の緑化の推進
- ⑤ 潤いのある親水空間の創出に向けた、呑川の水質改善
- ⑥ 老朽建築物の更新
- ⑦ 官民の垣根を超えた緑の創出



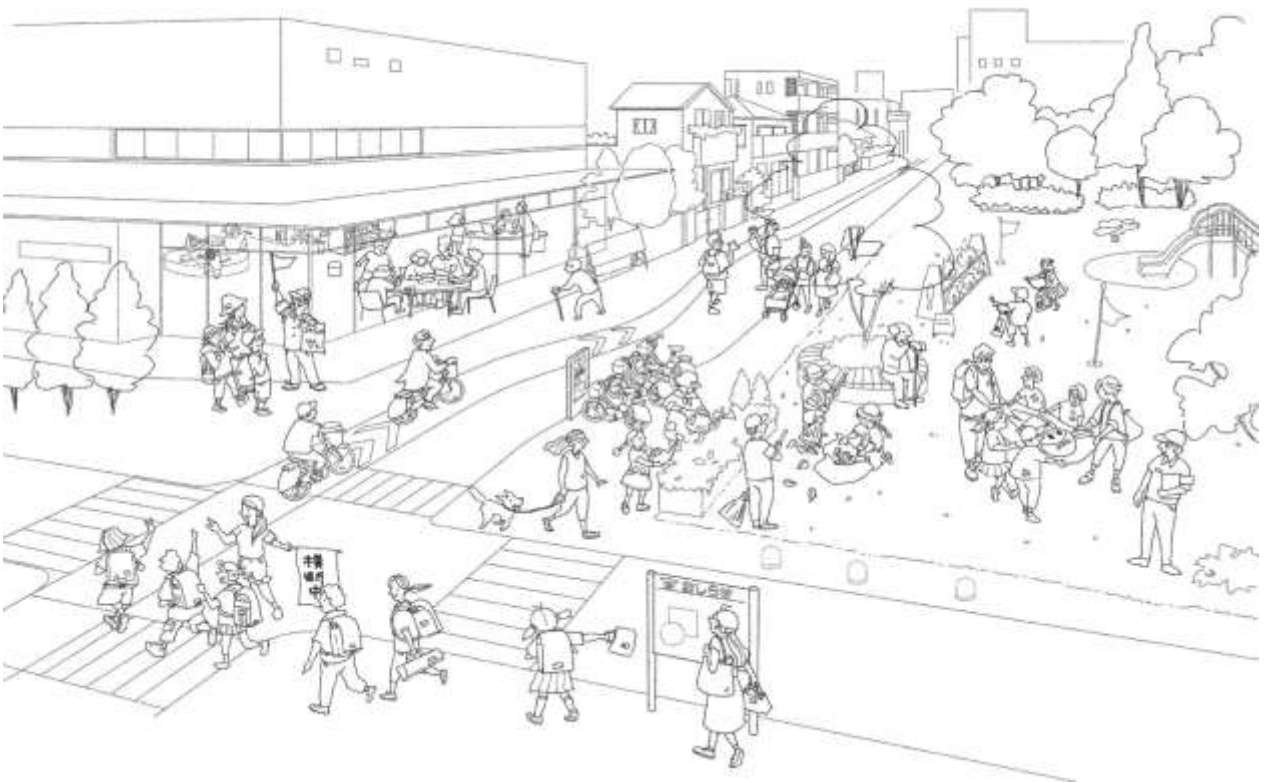
エリア 04. 生活交流エリア

(エリアの目指す姿)

学びや交流の場となる学校や公園などを中心として

地域への愛着や親しみの育成

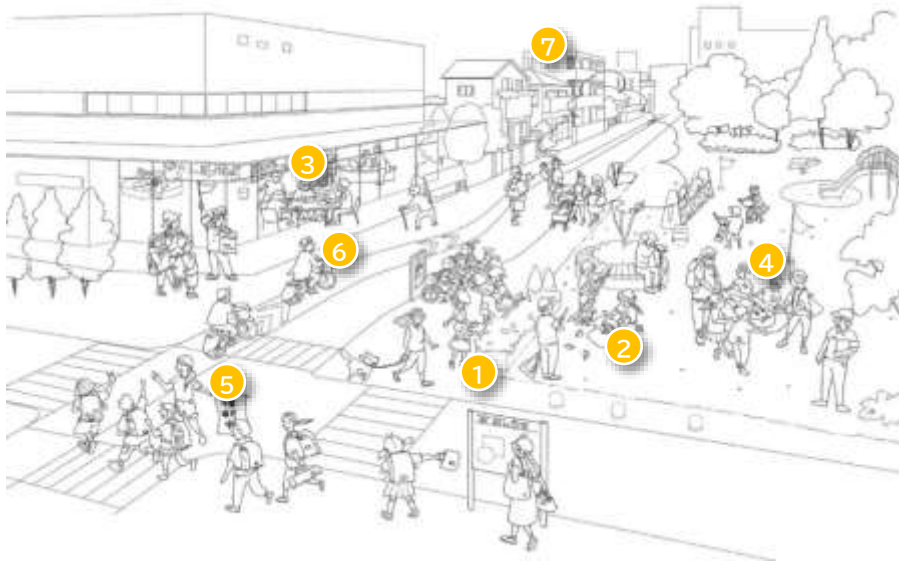
(将来イメージ)



(重点目標)

- (1) 人々が交流し、繋がりを育む生活環境の形成
 - ・公園等の緑づくりや美化活動に取組み、居心地の良い生活環境を創出すると共に、交流の促進を図る地域イベントの実施やサークル等に参加しやすい仕組みをつくる
- (2) 安全で安心して暮らせるまちづくりの推進
 - ・地域防災力を高める防災訓練の継続的な実施や、パトロール活動への支援
 - ・自転車マナーやルールの啓発活動に取組み、安全な移動環境を創出
 - ・あらゆる場所に緑を創出し、環境に配慮した省エネルギー設備の導入促進

(将来イメージの解説)



解説

- 重点目標 (1)
 - ① 地域ボランティアによる花壇づくりや緑豊かな公園の整備
 - ② 地域住民等による清掃活動
 - ③ 活発に行われている地域イベントやサークル活動
- 重点目標 (2)
 - ④ 災害時に備えた防災訓練や避難情報等の周知
 - ⑤ 地域が一体となっていく見守り活動やパトロール活動
 - ⑥ 自転車利用マナーやルールの啓発活動
 - ⑦ 建築物等の建替に合わせた敷地内の緑化と再生可能エネルギーの導入



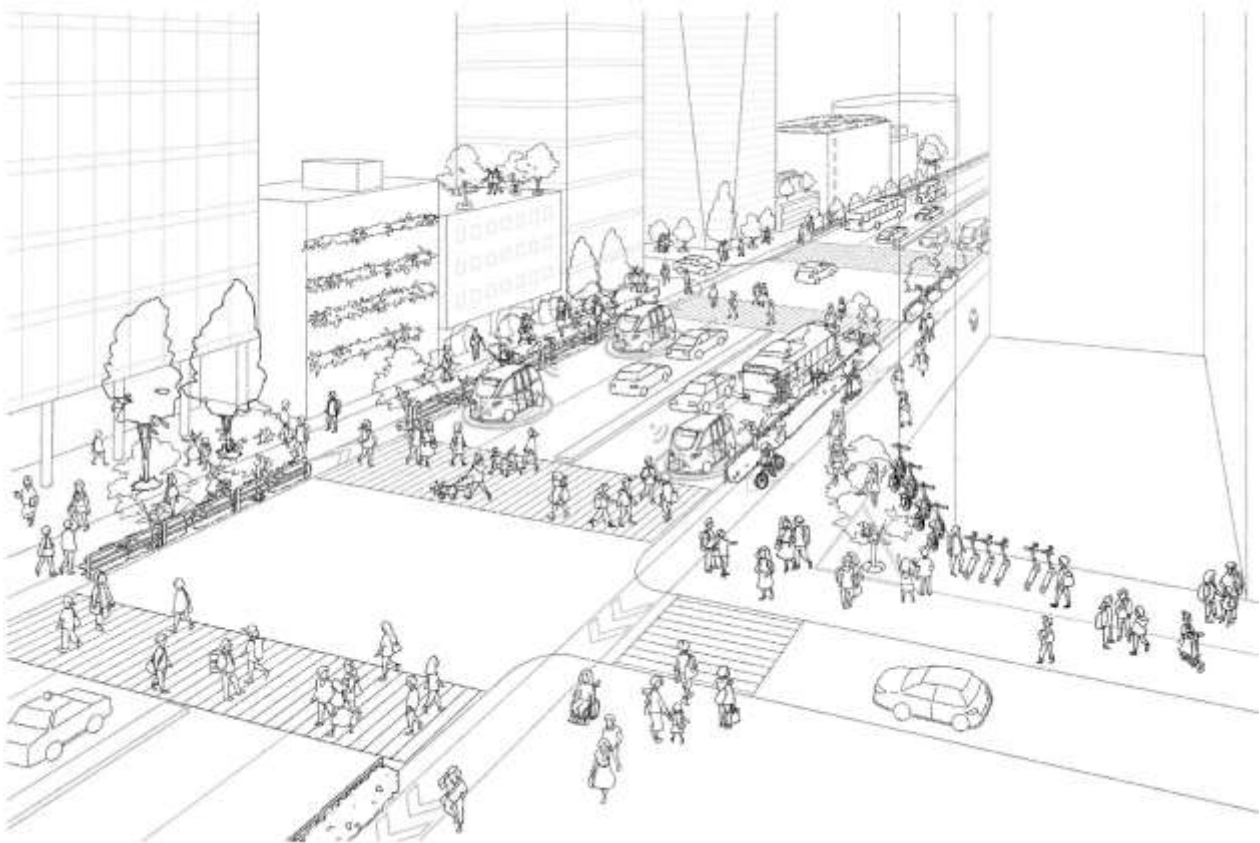
エリア 05. 幹線道路沿道エリア

(エリアの目指す姿)

広域的な移動を支え、街路樹や災害に強い建物が立ち並ぶ

安全で快適な沿道整備

(将来イメージ)



(重点目標)

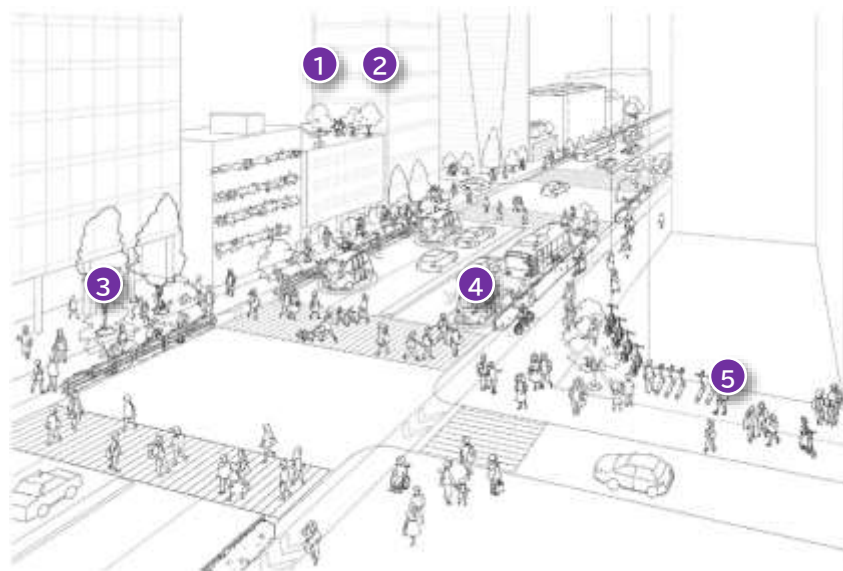
(1) 安心で安全な幹線道路沿道の形成

- ・沿道建築物の耐震化を促進すると共に、建替等に際しては防災上有効な建築物への誘導等による沿道環境を形成

(2) 円滑な移動を支える道路環境の創出

- ・街路樹や沿道の緑化による連続した緑の創出、次世代モビリティなど将来動向に応じた、道路空間のあり方等の検討

(将来イメージの解説)



解説

重点目標 (1)

- ① 沿道の老朽化建築物の建替えに合わせた耐震化の促進
- ② 建築物の重層化による、後背地への交通騒音の抑制

重点目標 (2)

- ③ 官民の垣根を超えた、沿道の緑化整備
- ④ 次世代モビリティが共存する道路空間
- ⑤ 自由で快適に移動できる交通手段の活用

第 6 章 まちづくりの分野別方針

BASIC POLICY

6-1. 13 の分野別方針

3つの目標のもと、13 の分野別方針を設定します。

目標や分野別方針は横断的に捉え、相乗効果を生み出していくことを意識します。

目標1

文化・交流・にぎわいを生み出す多彩な「活動」の創出



分野別方針1【商業】

いきいき元気な商業のまち

駅周辺は、商業を中心に発展してきましたが、居住者の増加や消費者ニーズの多様化など商業を取巻く環境が変化しており、競争も激化しています。

商業環境の整備などにより多様な人々のニーズに応じた商業の集積を促進するとともに、蒲田らしさを活かしたイベントの開催や情報発信に取り組み多様な人々を呼び込むことで、地域住民や来街者でにぎわうまちを創出し、商業で生まれる活力が将来に持続する商業のまちを目指します。



分野別方針2【産業・ビジネス】

産業やビジネスが育つまち

東海道軸と新たな広域連携軸（新空港線軸）の結節点である蒲田には東京城南地区の産業・経済の活性化をけん引する広域中心拠点としての役割が期待されています。

羽田空港との近接性や交通結節性を活かし、業務機能、産業支援機能やビジネス交流機能などの誘導を図るとともに、羽田空港や HANEDA×Pi0(HiCity 含む)との連携を強化することにより、産業やビジネスが育ち新たな価値を創造し、国内外へ発信するまちを目指します。



分野別方針3【暮らし】

多様な人々が快適に暮らせるまち

羽田空港の国際化や共同住宅等の増加などに伴い、居住者・学生・外国人などが増えていることを踏まえ、多文化都市として、誰もが安心して暮らせる居住環境の整備が求められています。

地域住民の生活を支える施設の充実を図ることにより、誰もが必要なサービスを受けることができ、それぞれのライフスタイルを快適に実現できるまちを目指します。また、地域に暮らす多様な人々の交流により、親しみやすいまちを目指します。



分野別方針4【観光】

国内外と繋がり、何度も訪れたいくなるまち

羽田空港の機能強化や新空港線整備などに伴い、蒲田を訪れる人の増加が期待されます。また、蒲田特有の文化に、若者や海外の文化が加わるなど、多様化が進んでいます。

空港利用者など様々な人をまちに呼び込むために、蒲田らしい観光資源の情報発信などを進めます。また、多言語化の充実や宿泊機能の誘導などを図ることにより、国内外の来街者と住民の居心地が良く滞在し、多文化の交流を育むまちを目指します。

目標2

地域の価値を高める「空間」の充実



分野別方針5【駅・駅前広場】

ゆとりを感じる利便性の高い駅と駅前広場

JR・東急蒲田駅を中心とした駅前空間を構成する基盤施設は、駅舎・駅ビルの老朽化、東西ネットワークの分断や駅前広場の機能不足など様々な課題を抱えています。

区の中心拠点として交通結節機能の向上を図るためにも、新空港線の整備に向けた取組を進めると共に、東西自由通路、駅舎・駅ビルと駅前広場などを含む基盤施設の一体的な整備を進め、ゆとりある空間を有し、駅利用者や地域にとっても利便性の高い、基盤施設を目指します。



分野別方針6【歩行者空間】

歩いてめぐり楽しめるまち

魅力的な店や場所が各所にありますが、幅の狭い道路や人の往来を阻害する車両の存在などにより、魅力的なスポットを巡り楽しむための回遊性や快適性に課題があります。

商店街や呑川沿いなど道路では、回遊性に配慮した歩行者空間を整備していくとともに、歩行者に配慮した車両動線の誘導などにより、思わず歩きたくなり楽しめる歩行者優先のまちを目指します。



分野別方針7【交通】

様々な手段で快適に移動できるまち

商店街などでは、回遊性の向上によるにぎわいの創出が求められていますが、駅前や商店街などでは、歩道を自転車が行き交うなど、快適な移動に課題があります。

自転車駐車場や自転車利用環境の計画的な整備と合わせて、歩行者・自転車・次世代型の新たなモビリティなどの多様な移動手段の有効活用により、誰もが快適に移動できるまちを目指します。



分野別方針8【建物】

建物の更新や活用が進むまち

老朽化により更新時期を迎えた建物が増えてきています。また、マンションなどの共同住宅の開発により、商店の連続性が欠如するなどの状況も見受けられることから、まちの魅力や活力の維持・向上が必要です。

共同化・協調化のほか多様な手法による建替えと、リノベーションなどによる既存ストックの有効活用を促進し土地の高度利用を図り、商業・業務・宿泊機能など多様な機能が調和した複合市街地の形成を図ります。商業が集積するエリアでは、低層部には店舗が連続し、中高層階には住宅や業務機能などの用途がバランス良く配置されたまちを目指します。

目標3

安心して快適に過ごせる「環境」の向上



分野別方針9【防災】

災害に強いまち

災害時の対策本部となる区役所を有し、また、住民・ビジネスパーソン・学生などが集中する地区であることから、住民の避難対応と帰宅困難者対応が同時に求められます。

大規模災害が発生した際に、機能継続や早期復旧が可能となるまちを目指して、建築物の耐震化や浸水対策、無電柱化などによる防災対策を進めるとともに、避難対応と帰宅困難者対応を円滑に進めるための体制構築により安全・安心なまちを目指します。



分野別方針10【ユニバーサルデザイン】

誰もが使いやすく人にやさしいまち

これまで、道路の段差解消や公共施設のバリアフリー整備などを中心に進めてきましたが、高齢化や国際化などの社会動向も踏まえて、高齢者・障がい者・子ども・外国人などの誰もが利用しやすい、ユニバーサルなまちづくりが不可欠です。

基盤施設のバリアフリー整備を進めるとともに、「どこでも、誰でも、自由に、使いやすい」を基本に、サービスやサインなどの情報提供や、情報通信技術を取り入れた取組により、人にやさしいまちを目指します。



分野別方針11【美化・景観】

個性と魅力のあるまち

まちなかの風景には蒲田らしい雑多なエリアなど、魅力的な場所が多くあります。一方で、路上放置物や看板、広告の無秩序な設置などにより、美観が阻害されている場所も数多くあります。

多文化都市として誰もが気持ちよく過ごせる環境を整備するため、清掃活動の実施や、清潔感を維持するための意識向上の促進、景観の一定程度の誘導により、多くの人に受け入れられるまちを目指します。



分野別方針12【自然・環境】

自然を感じ、環境にやさしいまち

緑の総量が少ない、呑川の有効活用ができていないなどの課題から四季や自然を感じることができない空間の形成が求められます。また、近年の夏の猛暑により建物に滞留し、まちなかへ人々が出てこないことも課題です。

自然や潤いを感じ快適に過ごしていただくため、公園や道路の緑化や呑川の親水空間整備などにより、自然と親しめるまちを目指します。また、人々を猛暑から守り、まちなかに留まり過ごしていただくための環境づくりを目指します。



分野別方針13【防犯】

安全・安心なまち

夜の治安の悪さや違法駐輪など多くの課題があります。課題解決のためには、犯罪発生を抑制するまちの環境づくりが必要です。

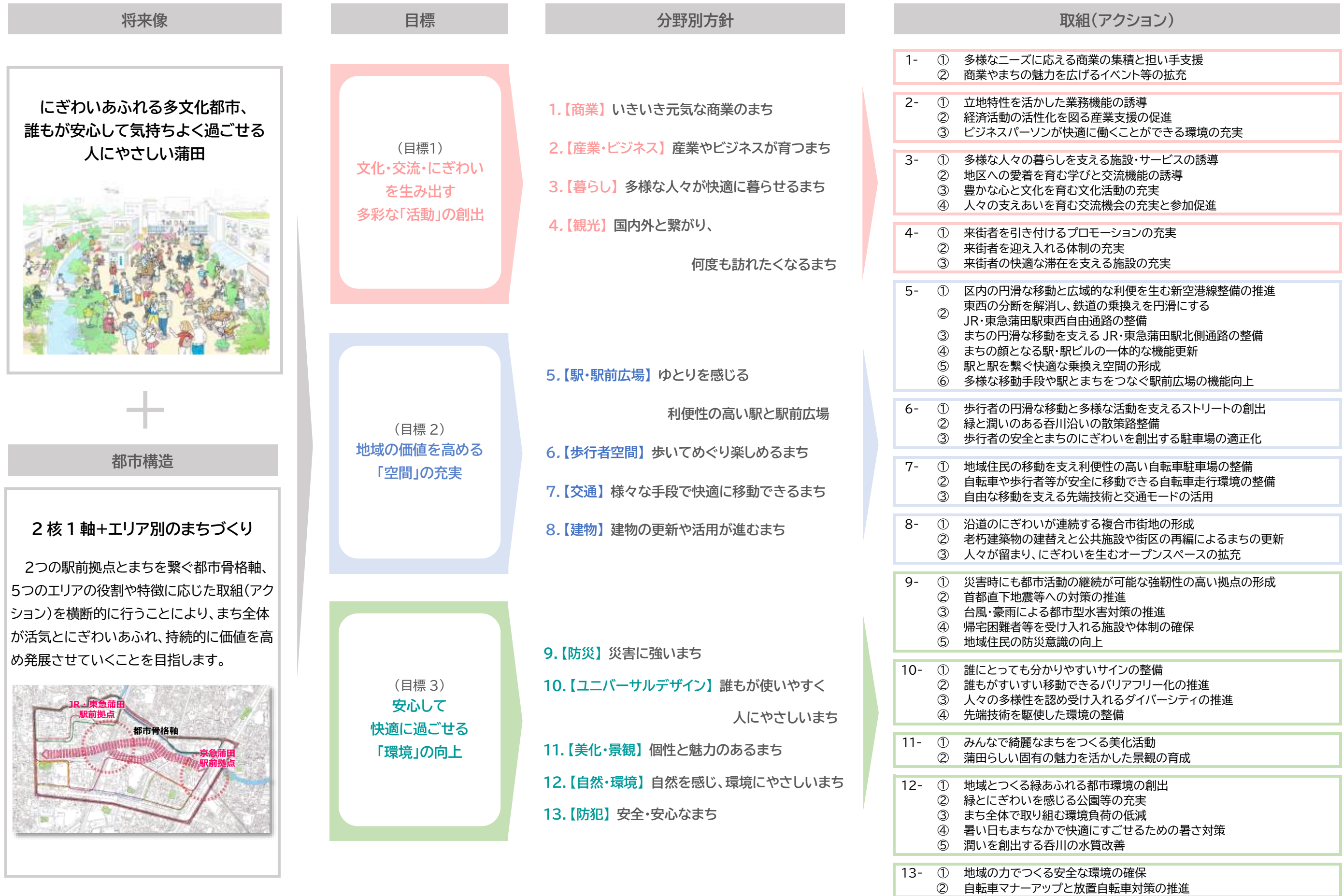
行政・地域住民・商店会・警察などが連携した防犯活動の実施や、自転車盗難防止に向けた啓発活動などを継続することで、若い人や女性など誰もが安心できるまちを目指します。

第7章 まちづくりの取組(アクション)

ACTION

7-1. まちづくりの取組(アクション)

13の分野別方針に基づき、それぞれの行動計画を定め、取組を行っていきます。



1. グランドデザイン
の改定にあたって

2. 蒲田駅周辺地区の
特徴と課題

3. まちの将来像

4. まちづくりの
方向性

5. まちづくりの目標

6. まちづくりの
分野別方針

7. まちづくりの取組

8. JR・東急蒲田駅前
拠点の施設整備

9. グランドデザインの
実現に向けて

分野別方針1:【商業】いきいき元気な商業のまち

1-① 多様なニーズに応える商業の集積と担い手支援

多様なニーズに応じた商業の集積を図り商店街の連続性を確保するため、商業の担い手や開業希望者を育成・支援します。また、商店街を巡回訪問し、商店街を取り巻く実情や課題を聞き取る中で、空き店舗や担い手不足等の課題解決に向けた取組提案を行います。

1-② 商業やまちの魅力を広げるイベント等の拡充

蒲田に訪れる機会・機運を高め、にぎわいを創出するため、商店街や地域団体（自治会・町会等）が連携し、公共空間やオープンスペースを活用したイベントの開催や商店街・個店の魅力を発信する戦略的なPR活動を支援します。



にぎわいのある商店街イメージ

分野別方針2:【産業・ビジネス】産業やビジネスが育つまち

2-① 立地特性を活かした業務機能の誘導

複数の鉄道やバスが乗り入れる交通結節性や羽田空港との近接性を強みに、様々な人材（主体）を集め、経済活動が活性化するように、業務機能の誘導を図ります。また、HANEDA×Pi0（HICity 含む）との連携を検討します。

2-② 経済活動の活性化を図る産業支援の促進

企業を支え、新たなビジネスや価値が生み出されるよう、シェアオフィス、インキュベーション施設やコワーキングスペース等を誘導、創業者や企業間交流の支援、中小規模 MICE の開催を支援します。また、実証実験・ショーケースの場としてまちの活用を検討します。

2-③ ビジネスパーソンが快適に働くことができる環境の充実

国内外のビジネスパーソンが蒲田で快適に働くことができるよう、中長期滞在機能をもった宿泊機能の誘導やまちなかの小さなワーキングスペースの誘導等による環境の充実を検討します。

1. グランドデザイン
の改定にあたって

2. 蒲田駅周辺地区の
特徴と課題

3. まちの将来像

4. まちづくりの
方向性

5. まちづくりの目標

6. まちづくりの
分野別方針

7. まちづくりの取組

8. JR・東急蒲田駅前
拠点の施設整備

9. グランドデザイン
の実現に向けて

分野別方針 3:【暮らし】多様な人々が快適に暮らせるまち

3-① 多様な人々の暮らしを支える施設・サービスの誘導

蒲田に住む幅広い世代や外国人、合わせて蒲田で働く人にとっても、日常の暮らしを快適でより便利にするため、医療、教育、子育てなどの生活支援機能を誘導します。また、国際交流センターを国際交流活動並びに多文化共生推進の拠点とし、多言語相談窓口、外国人区民への日本語教育、〈やさしい日本語〉の普及や多言語情報誌の発行等を実施します。

3-② 地区への愛着を育む学びと交流機能の誘導

様々な人々が集い、地域の歴史等を学び・交流が生まれ、それらを通じて、蒲田に対する愛着が育まれるよう、子ども・若者が安心して活動できる多面的な機能を持つ施設の誘導を検討するとともに、文化を通じてシビックプライドを醸成する機会を創出します。

3-③ 豊かな心と文化を育む文化活動の充実

人々の心を豊かにするとともに、文化活動の活性化を図るため、現代アートやデジタルアートの展示など、官民で展開する創造性を育む取組を実施します。

3-④ 人々の支えあいを育む交流機会の充実と参加促進

地域住民が互いを理解し、支えあいの精神を育み、地域コミュニティの活性化に繋げるため、自治会・町会等の地域イベントの開催、イベント等を通じた多文化交流の実施、外国人区民や若者が地域活動やサークルに参加しやすい仕組みをつくります。

分野別方針 4:【観光】国内外と繋がり、何度も訪れたいくなるまち

4-① 来街者を引き付けるプロモーションの充実

国内外からの来街者を増やすため、観光資源や魅力などを様々なツールを活用し、シティプロモーションを推進します。

4-② 来街者を迎え入れる体制の充実

おもてなしの心をもって来街者を迎え入れ、蒲田の魅力を伝える、観光に携わるガイド等の育成・活動支援、外国人来街者の受入れや蒲田の魅力を発信する施設の充実を図ります。

4-③ 来街者の快適な滞在を支える施設の充実

来街者の快適な滞在を支え、ストレスなく観光を楽しめるよう、宿泊機能を誘導するとともに、羽田空港利用者向けのサービスの充実を検討します。

(目標1) 文化・交流・にぎわいを生み出す多彩な「活動」の創出

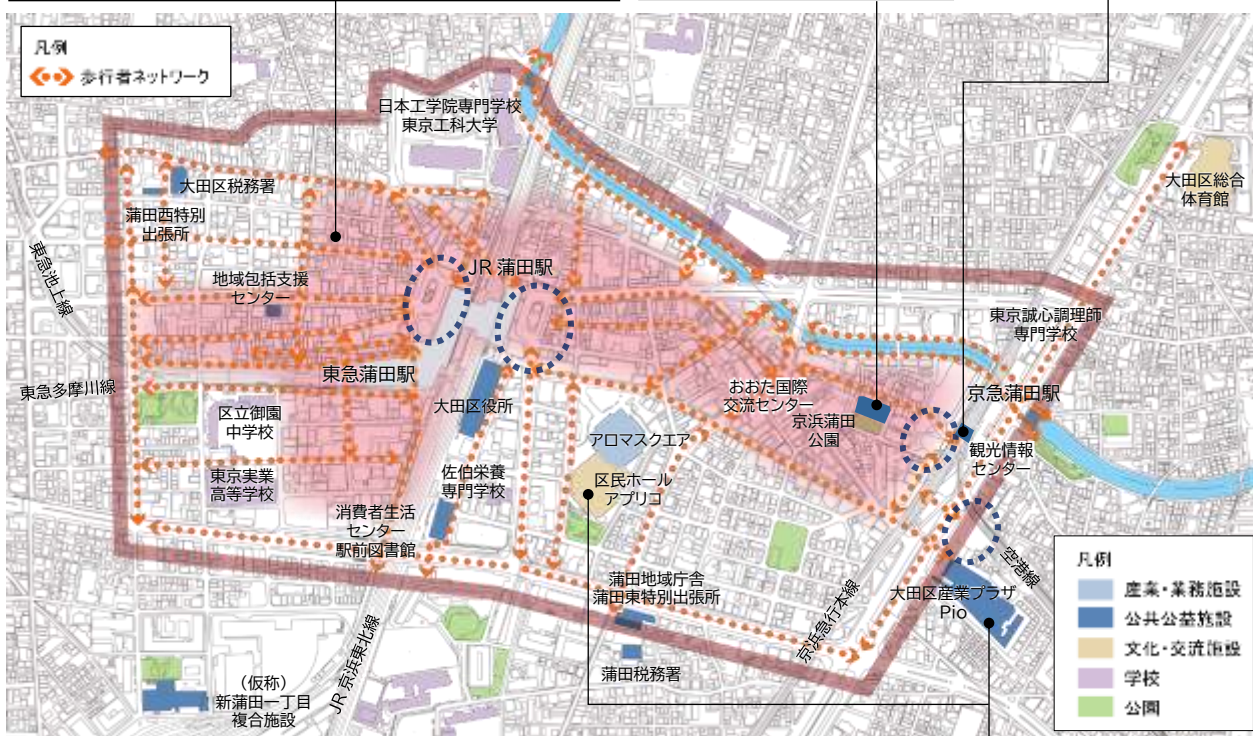
- 1-① 多様なニーズに応える商業の集積と担い手支援
- 1-② 商業やまちの魅力を広げるイベント等の拡充
- 2-① 立地特性を活かした業務機能の誘導
- 2-② 経済活動の活性化を図る産業支援の促進
- 2-③ ビジネスパーソンが快適に働くことができる環境の充実
- 3-① 多様な人々の暮らしを支える施設・サービスの誘導
- 3-② 地区への愛着を育む学びと交流機能の誘導
- 3-③ 豊かな心と文化を育む文化活動の充実
- 3-④ 人々の支えあいを育む交流機能の充実と参加促進
- 4-① 来街者を引き付けるプロモーションの充実
- 4-② 来街者を迎え入れる体制の充実
- 4-③ 来街者の快適な滞在を支える施設の充実

・商店の連続性を確保するため、商業の担い手や開業希望者を育成・支援します。(1-①)

・イベントの開催や商店街・個店の魅力を発信する戦略的なPR活動の支援をします。(1-②)

・外国人区民の生活・交流支援を行います。(3-①)
→多言語相談窓口を設置

・観光の情報発信や観光サービスを提供します。(4-①・②)



・公共空間(駅前広場)やオープンスペースを活用したイベントの開催を支援します。(1-②)

・ビジネス機会の創出・支援を行います。(2-②)
→産業交流機会の創出・支援や中小規模 MICE の開催 など

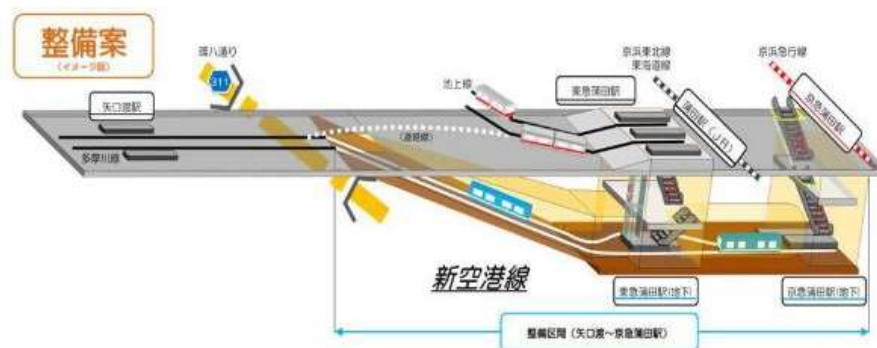
・文化・芸術に親しめる機会を創出します。(3-②)

歩行者ネットワークを中心に回遊性向上や周辺市街地へのにぎわいの波及など、多彩な「活動」の創出を期待します。歩行者ネットワークと連携しながら、目標2・3に関連する、空間整備や緑化・美化活動などを通じて、面的な回遊性やにぎわいの向上を進めます。

分野別方針 5:【駅・駅前広場】ゆとりを感じる利便性の高い駅と駅前広場

5-① 区内の円滑な移動と広域的な利便を生む新空港線整備の推進

区内の円滑な移動はもとより東京圏の鉄道ネットワークを強化し、利便性の向上、通勤や通学における混雑緩和を図る新空港線の整備を推進します。



新空港線整備イメージ

5-② 東西の分断を解消し、鉄道の乗換えを円滑にする JR・東急蒲田駅東西自由通路の整備

JR・東急蒲田駅東西の分断を解消し、連携を高めると共に、駅利用者の円滑な乗換えを実現するため、ゆとりある幅員を持つバリアフリーな東西自由通路の整備を推進します。



コンコースイメージ

5-③ まちの円滑な移動を支える JR・東急蒲田駅北側通路の整備

JR・東急蒲田駅東西の交通ネットワークを繋ぎ円滑な回遊を促すため、駅北側通路の整備に向け、関係者と検討を進めます。

5-④ まちの顔となる駅・駅ビルの一体的な機能更新

交通結節点である JR・東急蒲田駅・駅ビルの機能強化を図るため、各種制度を活用し、駅前広場等と一体となった、シンボリックで利便性の高い駅ビル等の整備に向け、関係者と検討を進めます。

5-⑤ 駅と駅を繋ぐ快適な乗換え空間の形成

多くの乗降客数を抱える交通結節点として、鉄道間の乗換えが快適にできるよう、わかりやすく、快適性に配慮した設えを備えた乗換え空間の形成に向け、関係者と検討を進めます。

5-⑥ 多様な移動手段や駅とまちをつなぐ駅前広場の機能向上

様々な交通手段の乗換えや、駅とまちをスムーズに繋ぎ、人々が集いにぎわう、オープンスペースを備えた JR・東急蒲田駅駅前広場の再編整備に向け、関係者と検討を進めます。

分野別方針6:【歩行者空間】歩いてめぐり楽しめるまち

6-① 歩行者の円滑な移動と多様な活動を支えるストリートの創出

出会いと交流を生む基礎的な公共空間として、居心地が良く留まり、快適な回遊を支える、沿道敷地等と連携したゆとりある歩行者空間の創出、道路空間の再配分を検討します。

コラム column

公共空間の充実・活用 に関する手法の例



歩行者利便増進道路制度(ほこみち制度)

「道路を街の活性化に活用したい」「歩道にカフェやベンチを置いてゆっくり滞在できる空間にしたい」などの道路に対する新しいニーズの高まりを受けて、道路法の改正(令和2年11月施行)により、新たに創設された制度です。

【制度の特徴・メリット】

- ✓ 道路管理者が歩道の中に、“歩行者の利便増進を図る空間”となる特例区域を定めることができます。
- ✓ 特例区域を定めることで、道路空間を活用する際に必要となる道路占用許可が柔軟に認められるようになります。
- ✓ 道路管理者が道路空間を活用する者(=占用者)を公募により選定することが可能になります。この場合には、最長20年の占用が可能となります。(通常は5年)



「ほこみち制度」のイメージ

(出典:「ほこみち」リーフレット/国土交通省道路局/2021.6)

6-② 緑と潤いのある呑川沿いの散策路整備

呑川の沿道を水と緑を楽しみながら散策できるよう、呑川緑道の整備に取り組みます。現在、蒲田駅周辺の呑川沿いに設置されている暫定自転車駐車場については、蒲田駅東口地下自転車駐車場を含めた今後の自転車駐車場の再編整備に伴い、整理を進めます。

6m-③ 歩行者の安全とまちなのにぎわいを創出する駐車場の適正化

歩行者と車の交錯や駐車場出入口等によるまちなみの分断を防ぐため、実態を踏まえ、駐車場の適正な需給台数、配置や荷捌き車両等のあり方、取組を検討します。

コラム column 地域ルール に関する手法の例

■ 附置義務駐車施設の集約化・駐車場出入口の設置制限

駐車場法に基づく附置義務駐車施設は原則として建築物又は建築物の敷地内に設けることとされていますが、駐車施設が建物ごとに分散して配置されることで出入口が多く発生し、自動車と歩行者の輻輳が生じています。

都市再生整備計画において、滞在快適性等向上区域(通称:まちなかウォークアブル区域)および駐車施設の附置について位置付けることにより、駐車場法の特例として、「附置義務駐車施設の集約化」と「附置義務駐車施設の出入口制限」を行うことが可能です。



附置義務駐車施設の集約化と駐車場出入口の設置制限のイメージ

(出典: 官民連携まちづくりの進め方 ～都市再生特別措置法に基づく制度の活用手続き～/国土交通省都市局/2021.3)

分野別方針7:【交通】様々な手段で快適に移動できるまち

7-① 地域住民の移動を支え利便性の高い自転車駐車場の整備

通勤・通学・買物など幅広く利用されている自転車の利便性を高めるため、JR・東急蒲田駅東口地下自転車駐車場など大田区自転車等総合計画に基づき整備を進めると共に、民間施設に対する整備を促進します。

7-② 自転車や歩行者等が安全に移動できる自転車走行環境の整備

自転車を快適に利用できる環境を確保するため、大田区自転車ネットワーク整備実施計画に基づき、自転車ネットワーク路線の自転車走行空間の整備を進めます。また、歩行者や自転車を主体とする交通環境を目指し、駅前広場では自転車の押し歩きを推進します。

7-③ 自由な移動を支える先端技術と交通モードの活用

誰もが自由に継ぎ目なく移動できるよう、パーソナル・グリーンスローモビリティの導入や、多様な移動手段を跨いだ移動経路の検索、予約・決済を一括で行うサービス（MaaS）の活用等を技術の進展に応じて検討します。

コラム column

先端技術の活用 に関する手法の例



★ 新たなモビリティサービスの導入

モビリティや交通の分野においては、多様な移動サービスの統合・自動運転・シェアリング・電動化などの技術の進歩や普及が進んでいます。蒲田駅周辺地区のまちづくりにおいては、これらの技術を積極的に活用しながら、人々の暮らしの質(QOL:Quality of Life)を高めるような、新たなサービスを導入していくことが考えられます。行政は、実証フィールドの提供や規制緩和などにより、大田区内外の企業等が主導する新たな技術の開発やサービスの展開を支援していくことが考えられます。

【都市における自動運転やその関連技術を用いたサービスメニュー例】



都市における自動運転やその関連技術を用いたサービスメニュー例
(出典:都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会 資料 /国土交通省都市局/2021.3)

分野別方針8:【建物】建物の更新や活用が進むまち

8-① 沿道のにぎわいが連続する複合市街地の形成

連続したにぎわいあるまちなみや複合市街地を維持するため、商業が集積するエリアは、低層階に商業や業務、中高層階に業務や住宅等を配置するなど、地区計画等を活用した誘導を図ります。



複合市街地のイメージ

コラム column

地域ルール に関する手法の例

街並み誘導型地区計画

蒲田には老朽化が進む建物が多く存在しますが、幅員が狭い道路に面する建物は道路斜線制限などによる影響を受けて、合理的な建替えを行うことが難しいという課題があります。また、歩行者空間が狭く安全性や快適性に課題のある道路も存在します。

「街並み誘導型地区計画」の活用により、壁面後退を行う代わりに斜線制限を緩和するなどが可能となり、建築物の建替えが促進され防災性が向上するとともに、ゆとりある歩行者空間の確保が可能となります。

なお、本ランドデザインの対象区域内では、京急蒲田駅西口地区において、街並み誘導型地区計画が定められています。(平成17年策定、平成27年区域拡大)



街並み誘導型地区計画の活用イメージ

(出典:京急蒲田駅西口地区街並み誘導型地区計画パンフレット/大田区)

8-② 老朽建築物の建替えと公共施設や街区の再編によるまちの更新

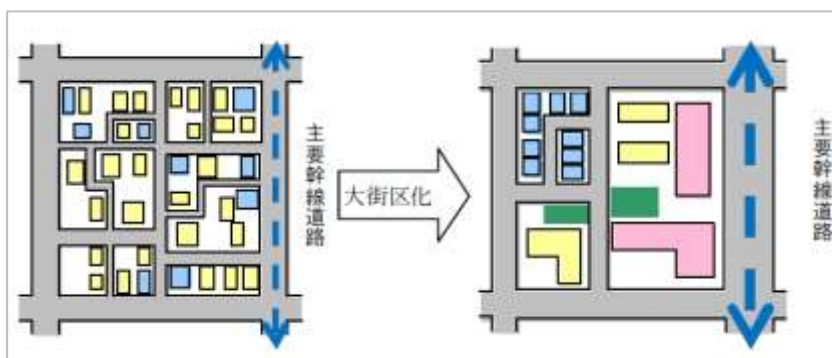
駅周辺において、土地の高度利用と市街地の更新を図るため、地区計画や都市開発諸制度等を活用し、建築物の建替え、共同化を促進します。また、公共施設や街区の再編も含めた計画的で一体的な整備についても検討を進めます。

コラム column 公共空間の充実・活用に関する手法の例



公共施設の再編・大街区化

大街区化とは、複数の街区に細分化された土地を集約・整形して大規模な街区を創出することにより敷地の一体的利用と公共施設の再編を図る手法です。大街区化に合わせて、都市機能の更新・集積や公共空間の充実を進めることにより、公共用地を含む土地の有効活用・効率的なエネルギー利用・緑地の確保・防災性や安全性の確保などの、様々な効果が期待できます。



大街区化のイメージ

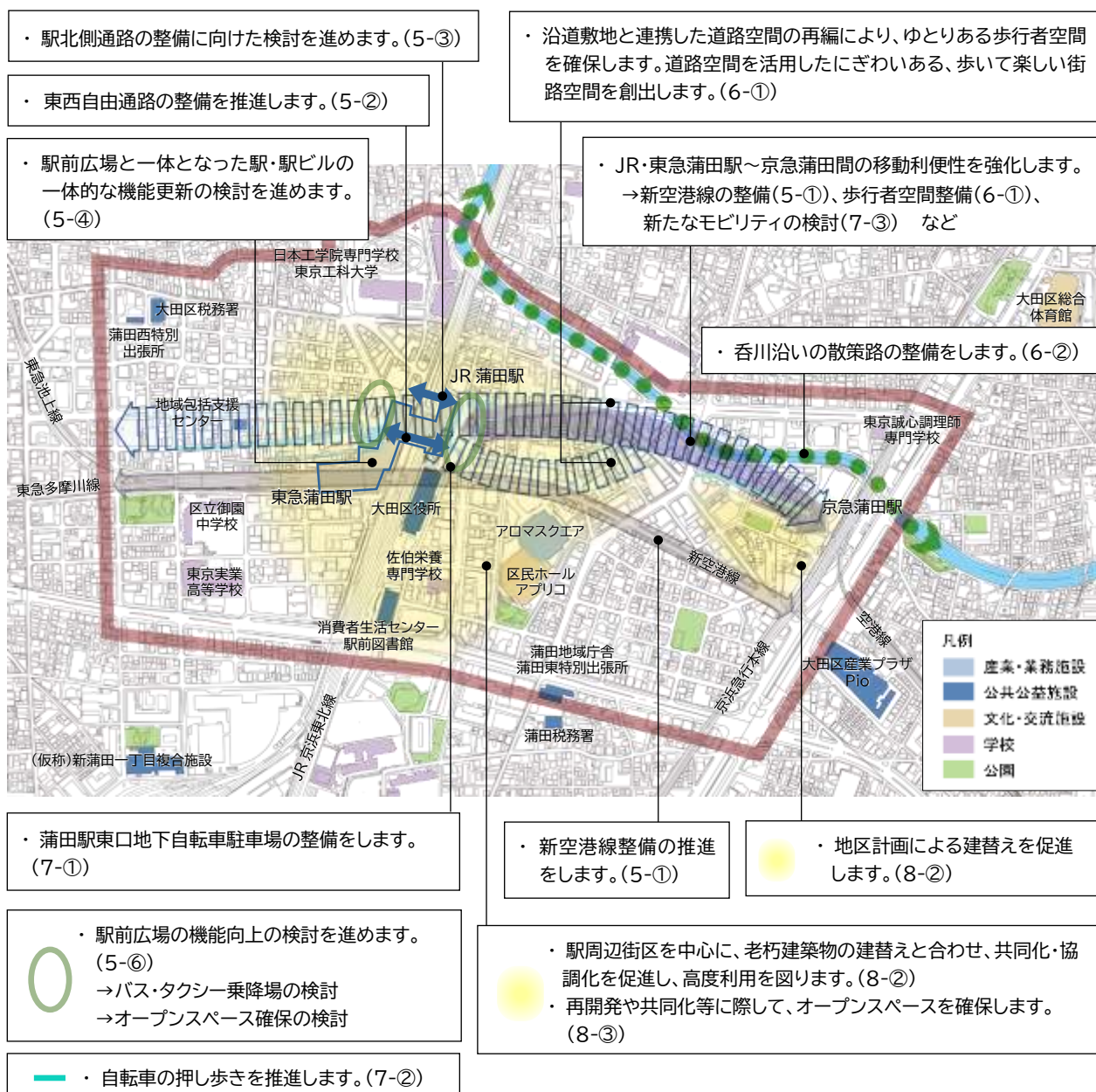
(出典:まちづくり推進のための 大街区化活用にかかる執務参考資料/国土交通省都市局・住宅局/2014.3)

8-③ 人々が留まり、にぎわいを生むオープンスペースの拡充

快適な移動や滞在を支え、にぎわいの創出に資する空間を拡充するため、再開発や共同化等に際して、公開空地としてのオープンスペースを整備すると共に、歩行者空間と一体的な利活用等のマネジメントについて検討します。

(目標2) 地域の価値を高める「空間」の充実

- 5-① 区内の円滑な移動と広域的な利便を生む新空港線整備の推進
- 5-② 駅東西の分断を解消し、鉄道の乗換えを円滑にする JR・東急蒲田駅東西自由通路の整備
- 5-③ まちの円滑な移動を支える JR・東急蒲田駅北側通路の整備
- 5-④ まちの顔となる駅・駅ビルの一体的な機能更新
- 5-⑤ 駅と駅を繋ぐ快適な乗換え空間の形成
- 5-⑥ 多様な移動手段や駅とまちをつなぐ駅前広場の機能向上
- 6-① 歩行者の円滑な移動と多様な活動を支えるストリートの創出
- 6-② 緑と潤いのある呑川沿いの散策路整備
- 6-③ 歩行者の安全とまちのにぎわいを創出する駐車場の適正化
- 7-① 地域住民の移動を支え利便性の高い自転車駐車場の整備
- 7-② 自転車や歩行者等が安全に移動できる自転車走行環境の整備
- 7-③ 自由な移動を支える先端技術と交通モードの活用
- 8-① 沿道のにぎわいが連続する複合市街地の形成
- 8-② 老朽建築物の建替えと公共施設や街区の再編によるまちの更新
- 8-③ 人々が留まり、にぎわいを生むオープンスペースの拡充



分野別方針9:【防災】災害に強いまち

9-① 災害時にも都市活動の継続が可能な強靱性の高い拠点の形成

災害時にも都市活動が継続する防災性の高い拠点を形成するため、災害に強い建築物やインフラ等の整備を関係機関と連携して進めると共に、再開発や共同化等に際して地域冷暖房施設の受入れやコージェネレーションシステムなど自立・分散型エネルギーの導入を促進します。また、事業者に対し、BCP（事業継続計画）作成に向けた啓発を進めます。

9-② 首都直下地震等への対策の推進

大地震による建築物倒壊から区民の生命・財産を守るため、老朽化した建築物の耐震化を促進するとともに、橋梁耐震整備計画に基づき、橋梁の架替え・耐震補強整備を計画的に推進します。また、電柱の倒壊解消による都市防災機能の強化、安全で円滑な歩行空間の確保や良好な都市景観の創出を図るため、大田区無電柱化推進計画に基づき無電柱化を推進します。

9-③ 台風・豪雨による都市型水害対策の推進

集中豪雨などによる都市型水害へ対応するため、建築物の更新に併せて雨水流出抑制施設、雨水貯留施設の整備を促進します。また、防水板の設置や電気設備の上層階設置を働きかけます。

9-④ 帰宅困難者等を受け入れる施設や体制の確保

帰宅困難者等の安全を確保するため、再開発や共同化等に際して一時滞在施設や物資の保管場所を確保します。また、企業、商店街、自治会・町会等で構成する蒲田駅周辺滞留者対策推進協議会において滞留者対策の取組を推進します。

9-⑤ 地域住民の防災意識の向上

地域住民が、日頃から災害に備え、「自らの命は自らが守る」という防災意識の向上を図るため、防災訓練や防災講話を継続的に行います。

1. グランドデザイン
の改定にあたって

2. 蒲田駅周辺地区の
特徴と課題

3. まちの将来像

4. まちづくりの
方向性

5. まちづくりの目標

6. まちづくりの
分野別方針

7. まちづくりの取組

8. JR・東急蒲田駅前
拠点の施設整備

9. グランドデザインの
実現に向けて

分野別方針10:【ユニバーサルデザイン】誰もが使いやすく人にやさしいまち

10-① 誰にとっても分かりやすいサインの整備

障がい者や高齢者、来街者等の安心で円滑な移動を支えるため、まちなかや駅等では多言語化及びユニバーサルデザインに配慮したサインの充実を図ります。また、公共交通間の乗換え経路では、シームレスで分かりやすい誘導サインの充実を図ります。

10-② 誰もがすいすい移動できるバリアフリー化の推進

障がい者や高齢者、来街者等が安全で快適に活動できるよう、大田区ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針やバリアフリー基本構想に基づき、道路・公共施設はもとより、公共交通機関や商業施設など民間建築物のバリアフリー化を進めます。

10-③ 人々の多様性を認め受け入れるダイバーシティの推進

様々な人が互いを認めあい、共に交流し、支えあう地域づくりに向け、豊かな心を育む「心のバリアフリー」教育を進めていきます。

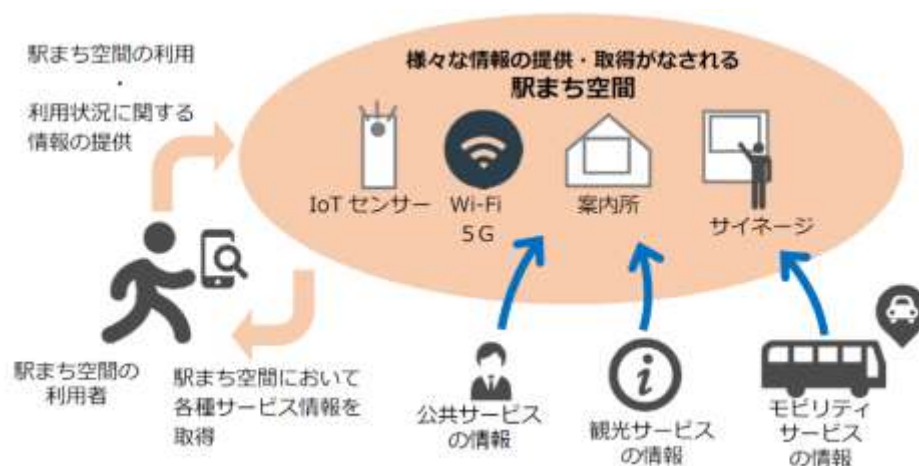
10-④ 先端技術を駆使した環境の整備

災害時にも安全で質の高い生活・都市活動を実現するため、5Gなど次世代通信インフラを始めとして、ICT等を活用したシームレスな公共交通、災害・観光対策、地域の見守りなど、多様な主体と連携し、先端技術を駆使した都市環境を目指します。

コラム column 先端技術の活用 に関する手法の例

★ まちづくりにおけるデータの利活用

駅や周辺市街地においては、様々な情報の取得が可能であることから、これらの情報を駅やまちの整備や管理・運営に活用していくことも考えられます。駅やその周辺市街地が、交通結節点としての役割だけではなく、IoTセンサー・高速通信(Wi-Fi, 5G等)・案内所・サイネージなどを介して、様々な情報が集まり提供される「情報の駅」としての役割を担うことで、人々の利便性の向上や、周辺市街地への回遊促進とその活性化へと繋がることも期待されます。行政は、データの提供や主体間の連携促進などにおいて、大田区内外の企業等が主導するデータを利活用したまちづくりを支援していくことが考えられます。



「情報の駅」としての役割も担う駅まち空間のイメージ
(出典:駅まちデザインの手引き /国土交通省都市局/2021.9)

分野別方針11:【美化・景観】個性と魅力のあるまち

11-① みんなで綺麗なまちをつくる美化活動

地域住民・事業者が主体となって、美化活動を進め、清潔なまちを維持します。ごみの収集等については、行政と地元が協力して、実施していきます。

11-② 蒲田らしい固有の魅力を活かした景観の育成

蒲田らしい多様性に富んだまちなみを活かし、大田区景観計画等に基づき、活気やにぎわいを感じさせる景観形成を図ります。また、警察と連携し、違法看板等の撤去、所有者への指導を継続して実施します。

分野別方針12:【自然・環境】自然を感じ、環境にやさしいまち

12-① 地域とつくる緑あふれる都市環境の創出

人々が緑を感じ、快適に過ごすことができる環境を創出するため、地域住民・事業者と連携し、地域の花の輪を広げると共に、都市開発や建築行為に合わせて敷地内の緑化を促進します。

12-② 緑とにぎわいを感じる公園等の充実

人々が集い、憩う緑あふれる空間を形成するため、公園や広場をリニューアルする際には、緑豊かな憩いの場として魅力の向上を図ります。また、地域のふれあいパーク活動を通じて、緑あふれ、きれいな公園づくり・環境活動を推進します。

12-③ まち全体で取り組む環境負荷の低減

地球環境にやさしいまちづくりを進めるため、商店街における街路灯のLED化を進めると共に、都市開発や建築行為に合わせ、省エネルギー設備の導入、再生可能エネルギーの導入など環境性能の高い建築物を誘導します。また、複数の建築物や街区間で面的にエネルギーを融通する取組を促進します。

12-④ 暑い日もまちなかで快適にすごせるための暑さ対策

暑い日もまちなかで快適にすごせる良好な屋外環境を創出するため、樹木や緑地の維持・創出と共に、ヒートアイランド現象の緩和や快適な憩いの場の提供等の取組を検討します。

12-⑤ 潤いを創出する呑川の水質改善

呑川沿いを親水空間として活用するために、高濃度酸素水浄化施設の稼働や合流式下水道の改善など、東京都や流域自治体と連携し水質改善対策を推進します。

分野別方針13:【防犯】安全・安心なまち

13-① 地域の力でつくる安全な環境の確保

安全で安心して暮らせるまちづくりを実現するため、地域住民が主体となる見守り活動や、商店街・町会と警察や行政が連携したパトロール活動を支援します。また、防犯カメラや防犯灯等の設置を促進します。

13-② 自転車マナーアップと放置自転車対策の推進

安全で快適な自転車利用環境や歩行環境を創出するために、自転車利用者に対してルールやマナーについてより理解を深めてもらえるよう啓発活動を実施します。また、行政、地元関係者がそれぞれの役割で連携しながら、放置自転車の撤去を引き続き取り組みます。

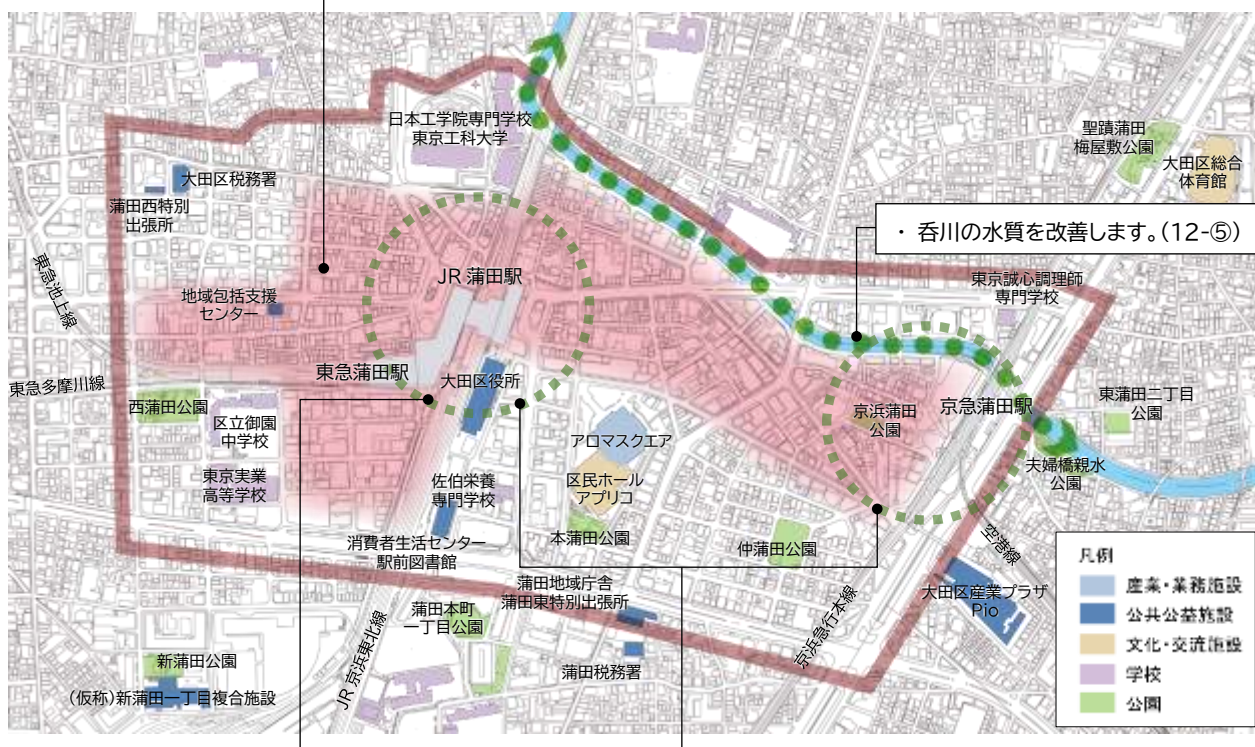


自転車啓発活動のイメージ

(目標3) 安心して快適に過ごせる「環境」の向上

- 9-① 災害時にも都市活動の継続が可能な強靱性の高い拠点の形成
- 9-② 首都直下地震等への対策の推進
- 9-③ 台風・豪雨による都市型水害対策の推進
- 9-④ 帰宅困難者等を受け入れる施設や体制の確保
- 9-⑤ 地域住民の防災意識の向上
- 10-① 誰にとっても分かりやすいサインの整備
- 10-② 誰もがすいすい移動できるバリアフリー化の推進
- 10-③ 人々の多様性を認め受け入れるダイバーシティの推進
- 10-④ 先端技術を駆使した環境の整備
- 11-① みんなで綺麗なまちをつくる美化活動
- 11-② 蒲田らしい固有の魅力を活かした景観の育成
- 12-① 地域とつくる緑あふれる都市環境の創出
- 12-② 緑とにぎわいを感じる公園等の充実
- 12-③ まち全体で取り組む環境負荷の低減
- 12-④ 暑い日もまちなかで快適にすごせるための暑さ対策
- 12-⑤ 潤いを創出する呑川の水質改善
- 13-① 地域の力でつくる安全な環境の確保
- 13-② 自転車マナーアップと放置自転車対策の推進

・商店街の街路灯のLED化など省エネルギー設備を導入します。(12-③)



・災害時における帰宅困難者の受け入れ体制を強化します。(9-④)

特に駅前には、

- ・美化活動(禁煙マナーなど)(11-①)や違法看板の撤去・指導(11-②)、放置自転車対策(13-②)を強化します。
- ・国内外からの来街者が円滑に移動できる分かりやすいサイン整備(10-①)と、道路や建物のバリアフリー化(10-②)を推進します。

※目標3については全域で様々なアクションに取り組みます。

- ・先端技術を駆使した環境の整備(10-④)
- ・みんなで綺麗なまちをつくる美化活動(11-①)
- ・地域とつくる緑あふれる都市環境の創出(12-①)
- ・緑とにぎわいを感じる公園等の充実(12-②)
- ・まち全体で取り組む環境負荷の低減(12-③)
- ・暑い日もまちなかで快適に過ごせるための暑さ対策(12-④)
- ・地域の力でつくる安全な環境の確保(13-①)

7-2. まちづくりの取組に関する実施場所・実施手順・実施主体

まちの将来像の実現に向けて、各目標及び分野別方針に応じたまちづくりを進めていくため、以下の取組（アクション）を行っていきます。これまでに示した、エリアごとの特性や拠点・軸が担うべき役割等を考慮しながら、重点的に取り組んでいくアクションや、それらアクションを多様な主体が協働し、20年先を見据え、優先順位を決めながら計画的に実行することが重要です。

そこで、各取組（アクション）の実施場所、実施手順、実施主体を整理しました。今後、この3つの視点を意識しながら、行政をはじめ、地域住民、事業者が適切な役割分担をしながら、主体的かつ着実にまちづくりを推進していくことが期待されます。

分野別方針	取組(アクション)	実施場所							実施手順			実施主体	
		エリア					拠点		軸	短期	中期		長期
		都市機能集積	新価値創造	多機能複合	生活交流	幹線道路沿道	JR・東急蒲田	京急蒲田					
目標1【活動の創出】	1 ①	◎	○	○			◎	◎	◎	→			行政・事業者
	1 ②	◎	○	○			◎	◎	◎	→			行政・事業者・区民等
	2 ①	○	◎	○			◎	◎	○	→	→		行政・事業者
	2 ②	○	◎	○			◎	◎		→	→		行政・事業者
	2 ③	○	○	◎			◎	◎		→	→		行政・事業者
	3 ①	◎	○	○			◎	◎		→	→		行政・事業者・区民等
	3 ②	◎		○					○	→	→		行政・事業者
	3 ③	○	◎							→	→		行政・事業者
	3 ④			○	◎				◎	→	→		行政・区民等
	4 ①	◎	○				○	○	○	→	→		行政・区民等
	4 ②	◎	○	○			◎	◎	○	→	→		行政・事業者・区民等
	4 ③	○	○	◎			◎	◎	○	→	→		行政・事業者
目標2【都市空間の充実】	5 ①						◎	◎		→	→	→	行政・事業者
	5 ②						◎			→	→	→	行政・事業者
	5 ③						◎			→	→	→	行政・事業者
	5 ④						◎			→	→	→	行政・事業者
	5 ⑤						○	○		→	→	→	行政・事業者
	5 ⑥						◎			→	→	→	行政・事業者
	6 ①	◎	◎				○	○	◎	→	→	→	行政・事業者
	6 ②	◎		◎						→	→	→	行政・事業者
	6 ③	◎	○				○	○	◎	→	→	→	行政・事業者
	7 ①	○	○				◎	◎		→	→	→	行政・事業者
	7 ②	○	○		○					→	→	→	行政
	7 ③	○	○			○	◎	◎	○	→	→	→	行政・事業者
目標3【環境の向上】	8 ①	◎	○	○			○	○	◎	→	→	→	行政・事業者・区民等
	8 ②	◎	◎				◎	◎	○	→	→	→	行政・事業者
	8 ③	◎	◎				○	○	◎	→	→	→	行政・事業者
	9 ①	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	→	→	→	行政・事業者
	9 ②	○	○	○	○	◎	○	○	○	→	→	→	行政・事業者・区民等
	9 ③	○	○	○	○	○	○	○	○	→	→	→	行政・事業者・区民等
	9 ④	○	◎				◎	◎	○	→	→	→	行政・事業者・区民等
	9 ⑤			○	◎					→	→	→	行政・事業者・区民等
	10 ①	○	○				◎	◎	◎	→	→	→	行政・事業者・区民等
	10 ②	○	○	○			◎	◎	◎	→	→	→	行政・事業者
	10 ③			○	◎					→	→	→	行政・区民等
	10 ④	○	○				◎	◎	◎	→	→	→	行政・事業者
11 ①	○	○		◎					→	→	→	行政・事業者・区民等	
11 ②	○	○				○	○	○	→	→	→	行政・事業者・区民等	
12	①	○	○		○		○	○	○	→	→	→	行政・事業者・区民等
	②	○			◎			○	→	→	→	行政・区民等	
	③	◎	◎	○	○	○	◎	◎	○	→	→	→	行政・事業者・区民等
	④	○	○	○	○	○	○	○	○	→	→	→	行政・事業者
	⑤	◎		◎						→	→	→	行政
	13 ①			○	◎					→	→	→	行政・事業者・区民等
13 ②	○	○	○	◎		○	○		→	→	→	行政・事業者・区民等	

アクションの実施場所

重点実施場所 (◎) :
当アクションが将来像実現のために特に重要であり、優先的に取り組むべき場所

実施場所 (○) :
当アクションが将来像実現のために重要である場所

アクションの実実施手順

【実施 (→)】 以下の目標時期に向けて、新たに実施する取組、及び実施に向けた検討・調整

短期的取組(概ね5年):
地域が取り組むソフト施策や、行政主体で進められる整備事業など

中期的取組(概ね10年):
行政主体で調整等が必要な整備事業や民間の建築物が関係する街区整備の推進など

長期的取組(概ね20年):
駅を中心とする都市基盤整備など事業者が主体となる公共性の高い事業。様々な関係者が係わるため、行政が総合的な調整を行いながら進める

【継続 (→)】 既に取組を実施しており、今後も継続して取り組んでいく事業など

アクションの実実施主体

区民等 : 区民(住民)、蒲田で働く人、蒲田で学ぶ人、蒲田を訪れる人など

事業者 : 地元企業、鉄道事業者、開発事業者、商店街など

行政 : 大田区、東京都、国など

1. グランドデザイン
の改定にあたって

2. 蒲田駅周辺地区の
特徴と課題

3. まちの将来像

4. まちづくりの
方向性

5. まちづくりの目標

6. まちづくりの
分野別方針

7. まちづくりの取組

8. JR・東急蒲田駅前
拠点の施設整備

9. グランドデザインの
実現に向けて

